

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2019年12月号 第148号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

報告と感想



第46回精神保健福祉「県民の集い」

11月13日 平塚市中央公民館大ホールで行われた第46回精神保健福祉「県民の集い」には、293名の参加者があり、アンケートでは多数の方々から、「良かった」というお声を頂きました。

第1部のオープニングアトラクションは、秦野病院デイケアメンバーで結成された“ひよこバンド”の演奏が3曲、うち2曲はオリジナルで、当事者の複雑な思いを綴った歌詞は、聴く者の胸に響きました。公の場での演奏は初めてとのこと、熱のこもった演奏でした。

第2部は式典で、堤年春じんかれん理事長の開会の挨拶に続き、落合克宏平塚市長、椎野こずえ神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課課長、山田正夫神奈川県精神保健福祉センター所長の皆様から励ましのお言葉を頂きました。

第3部は児童精神科医、夏苺郁子氏による講演で、当事者、家族、精神科医という3つの立場を併せ持つ経験から、幅広く、かつ内容の深いお話をされました。

第4部はパネルディスカッションで、当事者を励ますべき立場にある医療者から屈辱的な言葉をいわれ、それに屈せず生きてきた当事者のお話し、また、夫が長年に亘って病名がはっきりしないまま薬を処方され、様々な不快な体験をしてきた家族のお話し、それに対する夏苺先生のコメント、質問などがありました。

ロビーでは、パン、クッキー、うどん、手作り品など、支援事業所の売店も並び、また、夏苺先生の書籍「人は人を浴びて人になる」も販売され賑わいました。盛りだくさんの内容でしたが、無事、好評裡に終了しました。

《講演の要旨》

演題「これからの精神科医療を考える 当事者・家族・医療者がお互いを理解するために何が必要なのか ～母の公表から8年を経て思う事～」

「話を聞くことができる人になるには、まず、聞いてもらう体験をすること。自分が元気になったのは語りの力のお蔭です。しかし、それまでの30年間、そんなことにも気付きませんでした。診察室に座っているだけでは分からないことが沢山ありますが、医学部ではそういう事は教えません。母の病気を公表してから全国の家族会などでお話をするようになりました。当事者・家族の質問は人生そのものです。かつては父の職業（製薬会社のセールスマン）への見返し、いじめた友への見返し、その2つのリベンジが生きる力でした。しかし、誰のために生きれば良いのか分からなくなり、不幸の連鎖を断つために、出刃包丁をカバンの底に忍ばせていた時もあります。自殺と殺人は紙一重です。当事者と家族の苦しみはトップの先生には伝わりません。発症して引き起こされた当事者、家族の生活全体を見てほしい。発病後の生活についてもっと関心を持ってほしいと思います。

尊敬する柏木哲夫先生は回復するには3つの和解が必要であると言いました。1、自分自身との和解 2、家族との和解 3、運命との和解。病気の親を持つ子どもの支援と福祉を良くしなければなりません。

公表して良かったことは、1、親への怨みが変わったこと 2、全国に仲間ができたこと 3、精神科医以外に知り合いができたこと。

私が距離を縮めると、患者さんも本音で話をしてくれます。母への見方が尊敬へと変わりました。母は教会のシスターに心境を話していました。母の句に「生か死か 二つに一つの隙間風」とい

う句があります。その人が幸せか否かは本人が最後に決めるもの。治すとはどういうことか、治療観が変りました。

最悪の精神科医はどんな人だと思いますか？処方はずさん、でも優しく人柄の良い人です。平均以下の医者を作らないように医者の底上げが求められます。無知が偏見を生みます。ですから経験知、実践知が必要です。」

以下資料に書かれている言葉

- ・家族のケアしない権利を支える制度が欲しい。
- ・医療者にこそ精神疾患に対する偏見があると言われていています。医療者は家族会や当事者の会に一般参加者として一度は加わってほしい。病院では聞けない話が聞け、診察室では見えない姿が見えます。
- ・精神科医は主治医として本当に適切に説明できているか？当事者の長い人生を踏まえた説明の仕方を医学教育に盛り込んでほしい。
- ・医療者は「絶望」とはどういうことか、分からなくとも、想像する努力をしてほしい。
- ・精神疾患は慢性の経過を辿りゴールが見えない。就職・結婚・出産など、生きる上での糧になることを「諦める」しかないのか？
- ・家族が本当に願うのは当事者が「良い医療にかかって幸せになってくれる」ことです。
- ・良い医療となるために私が現在、取り組んでいること①患者さんとご家族に頑張ってもらうために⇒質問促進パンフレットの作成②医師に頑張ってもらうために⇒精神科医の診察態度を評価する全国調査の実施
- ・「原因が解明されていないのに薬を飲み続ける」この辛さをサポートすることは大切なリカバリー支援では？「飲みなさい」だけでは自尊心の復権にはならない
- ・「本当は薬など飲みたくない。」でも服薬せざるを得ない。当事者の葛藤を理解したうえで処方しよう。今も自分に言い聞かせています。
- ・全国を廻り、沢山の当事者、ご家族と会って「治すとはどういうことか？」を私自身、再考するようになりました。
- ・精神疾患への根強い偏見をどうすればいいの

か？

・立場の異なる者同士が相手を理解することは出来そうでできない。「できない」と認めただうえで、謙虚に相手の心情を想像することが必要。

・精神医療の世界だけに留まっていたは想像力は身につけません。

・司法の専門家と知り合っ言われたこと当事者は社会の中で生きているのであって、精神医療の世界だけで生きているのではない。

・社会学者樋口麻里さんの研究で分かった事社会的入院政策の歴史を持つ日本⇒当事者との交流を持たない理念的（医学的）知識は精神障害者に対する「危険視」を強め、社会的受容を低める。一方、社会的入院政策の歴史を持たないベトナム⇒理念的知識には社会的受容の意識を高める効果があった。

・理念的知識（医学的知識）ではなく、当事者との十分な期間と交流を伴った接触機会を設け、「経験的知識」を広げる。

「精神科にかかってよかった」と思えるように・・・「精神科にかかったことで更に不幸になることがありますように」

精神科全体の質の底上げのために、医師の世界の内側から（ゲリラ的に）言うべきことをきちんと訴えていこうと思います。

当事者の葛藤、家族の思いを代弁しながら、更に医師として言うべきことは訴えていくという、力強く、心に残る講演でした。

《パネルディスカッションの要旨》

テーマ「現在の精神科医療は本当に人の心を治しているのでしょうか」

コーディネーター 雙田春枝さん

《当事者 和田千珠子さんのお話し》今日のテーマに対する私の答えはとんでもない、です。精神障害者として医療者、関係者に人権を蹂躪された経験があるからです。初めての入院中に、お見舞いに来たいという友だちのことを主治医に話したら、「ここをどこだと思ってるんだ。天下の精神病院だぞ」と言われ凍りつきましたが、怒りが心の底から湧いてきて、「退院したら病気を隠さず生き

てやるぞ」と決心しました。また、別の医者からは、主人となる人と付き合っていることを話すと、「同病の男性と付き合ってる？薬をふやしましょう」といわれ、入院させられるのを恐れて家出しました。その後妊娠し、大病院に行ったら「あなたはお母さんにはなれない。墮ろしなさい」と。また、主人は精神科の助産師から「なんであんな人をはらませたんだ。子供の幸せを考えなさい」と言われました。主人は1日考えて「幸せかどうかはその子が育っていく中で感じる事ではないでしょうか」と答えました。私は医者の言う通りにはせず、自分の人生は自分で選んできました。そして素晴らしい家族を得ました。娘のことを、両親が精神障害者だからかわいそう、不幸、と思う人がいますが、娘は自信をもって言っています。「幸せの基準は人と比較するものではない」と。本当に人の心を治す精神科医療は、私が出会ってきたドクターがいるような世界では絶対ありません。当事者の話も聞かず、自信やプライドを粉々にするようなドクターは要りません。私のただ1つの光は、出産した翌朝、「やったじゃん、和田さん」と喜んでくれた看護師さんがいてくれたことです。

《家族 田中友さんのお話し》(ご病気のため雙田さん代読)

夫がこれまで40年間抱いてきた精神科医療に対する不信。初めて入院した時の医師は全く夫の言うことに耳を貸してくれなかったのも、今でも気が治まらず、最近、その医師に抗議の手紙を出しました。別の病院では、入院時に家族が病室に入ることを許可してくれず、また、そこで夫は拘束され、尿意を催して何度呼んでも来てくれなかったのも、放尿してしまいました。また、夫は統合失調症とか躁うつ病といわれてきましたが、ある時読んだ本から発達障害では、と思うようになり、その時の主治医に話したところ、「発達障害というのは子どもに対して言うんですがね」と言いながらも薬を変えてくれましたが、却って混乱し入院してしまいました。これまで、どの医師も夫を発達障害と診断した医師はいませんが、私はそう思っ

ベルの最新知識を学び、治療に活かしてほしいと思います。

《夏苺先生のコメント》発達障害は基本的には薬では治らず、発達障害を診断できない医師もおり、医師の底上げが求められます。各製薬会社の創薬に期待します。(まとめ 谷田川)

湘南あゆみ会は今回の「県民の集い」では、地元家族会として、秦野精神障害者家族会のぞみ会と共に実行委員会を立ち上げ、主催家族会としての役割を果たしました。会員一人一人の積極的な協力のお蔭で無事に終了できましたことを報告し御礼申し上げます。(実行委員長 谷田川靖子)



《アンケートのまとめ》

参加者 293名 湘南あゆみ会参加者 36名
 〈内訳〉来賓 8名 会員 139名 当事者 56名
 医療・福祉関係 35名
 行政関係 11名 一般 44名

《夏苺先生の講演について》良かったというコメントが多数ありました。以下主な感想。

- ・家族・当事者・医療者である夏苺先生だからこそ語るができる内容でした。
- ・本当に本当のことを言っただけだという気がしました。
- ・家族の思いの分かる方のお話でこういう方が医師の立場にいらっしゃることが心強いです。
- ・当事者の立場からの意見には説得力があり、とても心に響きました。
- ・夏苺先生の大変なご苦勞を聞き、当事者の気持ちも分ってくれて、医師の中から告発していきたいと言われ応援したいと思います。
- ・今回はこころの奥のいろいろな事が聞け、当事者は社会の中で生きているという言葉が心に残りました。
- ・家族は被害者ではない！当事者は加害者ではない！という言葉、しっかりと忘れないで生きていこうと思います。

・夏苺先生のお話が心にしみて涙が出そうになるほどでした。薬も大切だけれど、人も大切なんだと。支援者である私は、大切な人の一人なんだと身の引き締まる思いでした。

・精神科医の立場から、内科、外科の医者に今日の話をしてもらいたいと心から願います。

《パネルディスカッションについて》 勇気ある和田さんに称賛の声が多数ありました。

・当事者の方の話から精神医療の実態や問題点が浮き彫りになり考えさせられました。

・和田さんの強烈な本音、最高でした。家族の方の話もリアルな現状だと思ひ、やはり医療者の方がはるかに偏見があると思ひます。当事者が何かしても、言っても信じてもらえないことがあります。ひどいと思ひます。

・医療従事者の心ない言動が今も存在していることが心痛いです。

・二人の体験談が素晴らしかった。当事者の人権を考えない医者態度に怒りを覚えました。医者が変わってほしいです。

《ひよこバンドについて》 すばらしかった、感動したという声が多数寄せられました。

・当事者の方の心の叫びが伝わってきて感動しました。我が子の気持ちとだぶり、涙、涙でした。

・どんなに心を合わせて練習してこられたことか。これからも希望と勇気、前向きなメッセージを下さるよう、一層のご活躍を楽しみにしています。

・オープニングから感動しました。特にオリジナルソングは歌詞は重いのに曲が明るくて良かった。

・病気と向き合いながらのバンド結成、感動しました。素晴らしい詞曲でした。

《催し、その他について》

・実行委員の人たちがてきぱきと対応していてとてもよかった。

・式典30分は長い。全体の時間を2~2時間半とすれば一般の人でも入りやすいのでは。

・スライドが見難かった。

・バスを下りた所にも案内人が欲しかった。

・会場がとても寒かった、など。

(まとめ 三富)



これからの予定のお知らせ

令和2年1月定例会 《新年会》

日時 1月20日(月) 13:00~15:00

会場 平塚YWCAホール 平塚駅南口歩3~4分

会費 1500円

申込 1月10日(金)まで

申込・お問い合わせ先 渡辺みどり

☎ 080-2071-5909

アコーディオンに合わせて大きな声で歌って

日ごろのストレスを発散しましょう!!

食べて歌って笑って若返りのひととき!!

みなさまの参加をお待ちしま〜す。

隠し芸募集中!!

第28回 ちゅうおう FESTA

日時 令和2年1月25日(土) 26日(日)

9:00~16:00

会場 平塚市中央公民館

ちゅうおう FESTAは公民館まつりの一環として毎年開かれており、多くの団体が参加して様々な活動が行われます。今回、湘南あゆみ会は初めて模擬店部会に参加して会のPRを行います。(但し25日のみ)

是非皆様 見に来て下さい。

今年度第3回 じんかれん研修会

「病める家族」とのコミュニケーション / 家族にとって「心の病」をどう受け止めるか?

講師 品川 博二 氏

日時 2020年2月4日(火) 10:00~12:00

場所 かながわ県民センター304会議室

参加費 無料

今年度最後の研修会となります。

講師の品川博二氏はケアカウンセラーとして有名な方。お話も面白いと評判です。

参加者には湘南あゆみ会から交通費の補助があります。奮ってご参加下さい。